

英語教材としての映画スクリプト (1): 接頭辞 un-に関して
 Movie Scripts for English Learning/Teaching Material (1): On the Prefix Un-
 飯田泰弘
 IIDA Yasuhiro

1. はじめに：語彙力強化と否定の接辞

英語を使いこなすには、語彙力が重要である。ある調べによると、英語母語話者は就学前には約 1 万 3 千語、教養のある成人は約 12 万の単語を習得しているらしい (Pinker 1999)。この場合、仮に 1 万語の語彙力しか有さない日本人が、12 万語の語彙を持つ英語母語話者と英語でコミュニケーションをしようとする、遅かれ早かれ、困難な場面に出くわすことは明白である。

語彙力強化のために、接辞の特性に注目する英語学習者は少なくない。たとえば、接頭辞の extra- が「(領域や範囲の) 外の」という意味を持つと知れば、extraordinary が「並外れた」、extralegal が「法の適用外の」、extracurricular が「正課外の」という意味になることは記憶しやすくなる。拘束形態素である接辞は「語」と異なり単独で使用することはできないが、それ自体が固有の意味は有しているため、各接辞の意味や機能に関する知識は語彙力強化の役に立つ。

しかし、接辞には複雑な点も多い。たとえば、「否定を表す接頭辞」と呼べるものを書き出してみても、(1) に示すように多くの接頭辞が存在している。¹

- (1) a. in- : impossible, incomplete, illegal, irrelevant, *etc.*
- b. un- : unfair, unhappy, unjust, unkind, unlike, untrue, *etc.*
- c. a- : achromatic, amoral, apolitical, asexual, asocial, *etc.*
- d. dis- : dishonest, disloyal, dissimilar, dissatisfied, *etc.*
- e. non- : nonalcoholic, nonalphabetical, nonfinite, nonverbal, *etc.*

当然、これらの接辞には互いに異なる特性があり、どの接辞を使うかは好き勝手に決められない。uncover と discover は異なる動詞であり、また un- は kind に付いて unkind を作れるが、sane の場合は in- を付けて insane にしなければならない。さらに、次の映画スクリプトを見てみよう。²

- (2) This is what happens when an unstoppable force meets an immovable object. You truly are incorruptible, aren't you? Huh? You won't kill me out of some misplaced sense of self-righteousness. <02:13:24>
 (The Dark Knight, 2008)

unstoppable と immovable に注目すると、stop と move はいずれも接尾辞-able を取っているものの、接頭辞は un- と im- で異なっている。また、immovable と incorruptible からは in- が基体からの音的影響により異形態を持つことがわかるが、un- には異形態は存在しない。さらに self-righteousness のような複合語の場合、sufficient の否定は in- を取る insufficient になるが、複合形容詞 self-sufficient になると un- を用いた un-self-sufficient を形成するという指摘がある (Selkirk 1982: 106)。

このように、一言で「否定」の接頭辞と言っても、そこには「音」や「綴り」や「基体との相性」といった、さまざまな要素が互に関連し合っており、たった数秒で通り過ぎる (2) の映画スクリプト内でも、多種多様な英語の言語現象が確認できるのである。

¹ 各例は西川 (2013) などを参考に、形容詞に限って挙げている。(1) の接頭辞に de- を加える分析もある。

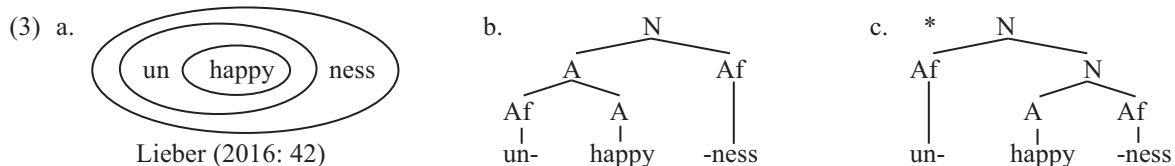
² 本稿ではドラマやアニメも含めて「映画」と呼び、映画スクリプト内の太字下線は筆者によるものである。

このような点を踏まえ本稿では、接頭辞 **un-** に関して日本の英語学習者にとって重要となる特性をまとめ、**un-** の理解を深めるためには映画スクリプトが有用な教材となることを示す。具体的にはまず、2 節で接頭辞 **un-** の基本的性質を確認し、3 節では **un-** が付く形容詞（「**un-**形容詞」と呼ぶ）、4 節では **un-** が付く動詞（「**un-**動詞」と呼ぶ）を取り上げ、それぞれの重要点を紹介する。そのうえで5 節では、**un-** の多種多様な機能を正しく理解するうえで、映画が効果的な教材となることを多数の実例を用いて提示する。6 節はまとめである。

2. **un-** の基本情報

接頭辞の **un-** の歴史は古く、古英語ですでに形容詞、副詞、名詞、形容詞化した現在・過去分詞などに付加されていたという (Marchand 1969, 米倉 2015)。語源はゲルマン語の **a-** や **an-** とされ、中英語までに数は激減したものの、現在でも多くのゲルマン語系の基体 (e.g., **unclean**) や、形容詞化した現在分詞・過去分詞 (e.g., **unfeeling**, **unarmed**) に付き、主な機能は「否定」である。

語形成に目をやると、複数の形態素から成る派生語であってもそれらが一度に結合するとは考えられておらず、たとえば **unhappiness** の場合、(3a) のような玉ねぎの皮状の階層があるとされる。



un- の下位範疇化素性は、**un-**: [__ A]_A や **un-**: [__ V]_V とされており、**un-** は主に形容詞と動詞に付加する。³ すなわち、二分枝仮説 (Anoroff 1976, Selkirk 1982) に従い、派生語では一度に一つの接辞だけが付加すると考えれば、**unhappiness** では (3b) のようにまず接辞 (Affix: Af) の **un-** が **happy** に付き、次に接辞 **-ness** が付く過程を経ることになる。一方、**un-** が名詞 **happiness** に付加することを描く (3c) の構造は適切ではない。以上を踏まえ、次節から **un-** が形容詞と動詞に付くケースを順に概観する。

3. **un-** 形容詞の場合

(1) のリストにあるように、**un-** は形容詞に付加すると「否定」の意味を表すことは周知の通りである。しかし、以下に示すように **un-** 形容詞には一筋縄ではいかない特性も多い。

3.1 英語史的な観点

まず、語源との関係性を見てみよう。日本語の、「不」や「無」や「未」や「非」のような否定接辞が自由に入れ替えられないのと同様に、生産性が高いとされる **un-** と **in-** にも各々の基体との相性というものがある。たとえば、**un-** は **unkind** を作れても ***unsane** は作れず、逆に **in-** は **insane** を作れても ***inkind** は無理である。この理由には語源が関係しており、**un-** はアングロ・サクソン系であるため同系統の **kind** との相性がよく、一方で、ラテン語系である **in-** は同系統の **sane** との相性がよいのである。⁴ このような「同一語源結合の原則」に従う現象は、複合語形成や接辞付与でよく見られる。接尾辞においても、**unkind** にはアングロ・サクソン系の **-ness** が付き **unkindness** を作るが、全てラテン語系の3要素から成る **insensible** には同じくラテン語系の **-ity** が付いて **insensibility** が派生される。

3.2 基体の意味的制約と構造的隣接条件

³ ただし、数は少ないが **unemployment** や **untruth** などの **un-** が名詞に付く例もある。

⁴ とともにラテン語系の **nature** と **-al** が結合した **natural** に、アングロ・サクソン系の **un-** が付く例もある。

un-が形容詞に付加する場合、基体の形容詞に制限がないわけではない。Liber (2016: 40) や Katamba & Stonham (2006: 80) が挙げた例を (4) で見てみよう。

- (4) a. unwell, unhappy, unwise, unclean, unoptimistic, unintelligent
b. *unill, *unsad, *unfoolish, *undirty, *unpessimistic, *unstupid

(4a, b) の対比からは、un-は「否定的な内容の形容詞には付加できない」という意味的制約を持つことが分かる。⁵ それでは、英語学習者はこの制約を覚えれば済むかと言うと、話はそう簡単でもない。この制約に違反すると思える unhorrified、unspiteful、unenvious が存在するためである。これを説明するには、「un-は否定的な内容の基体と構造上隣接してはいけない」という、隣接条件をさらに設けるという方法がある (Allen 1978)。すると、問題の各語はそれぞれ [un[[[horror]ify]ed]], [un[[spite]ful]], [un[[envy]ous]] という構造になるため、un-は(太字下線部の)否定的な語と構造上隣接せず、各語の容認性を捉えることは可能になる。

3.3 否定の対象

「否定」という概念自体にも注意すべき点がある。たとえば、unkind は kind を否定する語であるが、「親切さ」という性質には kind でも unkind でもない中間段階が存在する。よって、very kind や very unkind のような very による修飾や、(5a) のような文も容認される。また、(5b) が示すように un-American 「アメリカ(人)的でない」でも同様のことが言える。しかし一方で、non-を使った non-American の場合は、*very non-American という修飾関係や、(5c) のような文は認められない。

- (5) a. John is neither kind nor unkind.
b. John is neither American nor un-American.
c. *John is neither American nor non-American. (竝木 1985: 33)

この事実は、(1) のように un-や non-を一様に「否定」の接頭辞のリストに入れる危険性を示しており、より詳細な細分化の必要性が見えてくる (cf. Allen 1978, 竝木 1985)。

加えて、否定接辞による否定と、not による否定との違いも重要である。久野・高見 (2007) によれば、(6) の unhappy は「不幸である」ことを意味しているが、not happy では「幸せではない」と述べているだけで、不幸かどうかまでは言及していない。これは「親切さ」と同じく「幸せさ」には程度があるためで、(6b) の文に矛盾が生じないことがその証拠である。一方、程度の幅がなく二極化する(un)available のような形容詞の場合は、(6c) のいずれの否定表現でも同じ情報が伝達される。

- (6) a. John is {unhappy / not happy}.
b. John is not happy, but not unhappy.
c. This room is {unavailable / not available} for the party. (久野・高見 2007: 42)

これが意味するのは、構成素否定と文否定には意味の違いが生じる場合があり、それは un-が付加する形容詞のタイプによって決まるということである。これは、unhappy と not happy の両方を単純に「happy の否定」として扱うことの危険性を示しており、語と文の各レベルにおける「否定」の機能をきちんと理解しておくことが学習者には求められる。

⁵ Liber (2016: 40) も指摘しているように、unselfish や unhostile といった例外もわずかながら存在する。

3.4 un-分詞の形容詞的性質

最後に、un-分詞と呼ばれるものを見てみよう。un-分詞とは、(7a) のような un-受動文 (*un-passive*) において、be 動詞に後続する un-付きの分詞のことを言う (Siegel 1973, Hust 1977)。一般的な受動文とは異なり、un-受動文には対応する能動文が存在せず、一見 (7a) の能動文に見えそうな (7b) は非文となる。一方で、(8) の分布を見れば un-分詞が形容詞と同じ振る舞いを示すことがわかる。

(7) a. The door was unpainted.

b. *Someone unpainted the door.

(8) The book remains to be {read / *red / *unread}.

これらの事実は、通常受動文に否定の un-を付与したものが un-受動文となるわけではないことを示している。un-付きの形容詞は、このような特殊な文も生むことになるのである。

3.5 un-形容詞のまとめ

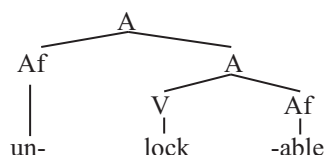
3.1 節から 3.4 節で確認したように、un-形容詞を正しく使うためには、語源的情報、基体の意味的情報、構造的情報、否定の概念、といった複数の重要事項を正確に理解しておく必要がある。これはすなわち、un-を単に「否定」を表す接頭辞と把握するだけでは、英語学習者はいつかどこかで対応しきれない英語の実例に遭遇し、その結果、誤った英語を使う、不必要な混乱をする、英語に対する苦手意識を持つ、といった望ましくない事態を招く可能性を意味する。

4. un-動詞の場合

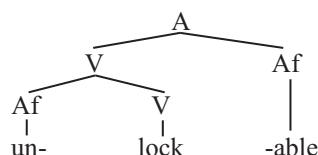
3 節の un-形容詞に続き、4 節では un-が動詞に付加するケースを見てみよう。ここで重要となるのは、形容詞に付く un-は「否定」の意味を持つ一方で、動詞に付く場合は同じような「否定」の概念は持たない点である。たとえば、freeze「凍らせる」が unfreeze になると「凍らせない」ではなく「解凍する」になり、tie「結ぶ」が untie になると「結ばない」ではなく「ほどく」になる。よって、この場合の un-は、動詞が表す行為自体を「否定」するのではなく、一度おこなわれた行為の結果を「元に戻す」という意味になる。

このような un-の意味の二面性は、語の多義性を生むことになる。たとえば、unlockable には「施錠できない」と「開錠できる」という2つの意味があり、語構造はそれぞれ (9a) と (9b) になる。

(9) a.



b.



(9a) では、動詞 lock と -able が結合して「施錠できる」という形容詞ができ、そこに un-が付くので「否定」の意味が加わった「施錠できない」という語ができる。一方で (9b) では、un-はまず動詞 lock と結合するので「施錠する」を元に戻す「開錠する」という動詞を作り、そこに「可能」の -able が付くので「開錠できる」という語ができる。つまり、最終的には同じ形態の形容詞を形成するにしても、そこに至るまでのプロセスが異なれば、異なる意味の派生語が生まれるのである。

しかし、「元に戻す」という意味だけでは un-動詞の特性をすべて網羅できるわけではなく、他にも注意すべき点が多い。その点を次節からおさえていこう。

4.1 基体の意味的制約

un-が動詞に付加するときにも、基体に対する意味的制約がある。次の動詞を比べてみよう。

- (10) a. untie, unwind, unhinge, unknot
 b. *undanced, *unyawn, *unexplode, *unpush (Lieber 2016:40)

(10a, b) の文法性の違いが示すのは、一般的に un-は「結果」を含意する動詞に付く接辞であり、そのような含意がない行為動詞には付加できないということである。また、結果の中でも一時的な結果を表す動詞に限られるため、永久的な結果を含意する explode のような動詞に付くことはできない。

4.2 範疇選択と意味選択

un-の付加が文全体の様子を変えることもある。次の文を見てみよう。

- (11) a. He tied his horse to the tree.
 b. He untied his horse from the tree.

他動詞である tie も untie も、目的語位置には対象 (Theme) の NP と PP を取る。しかし、(11a, b) では un-の有無が PP 内の前置詞を to と from で変えており、tie の項構造は [Agent, Theme, Goal] であるが、untie では [Agent, Theme, Source] に変化している。これが意味するのは、tie の範疇選択の情報は untie に受け継がれるが、意味選択は継承されていないということである。

同様のことは (12) でも観察でき、wrap も unwrap も範疇選択は NP と PP で共通しているが、意味選択に関しては、前者は対象と着点、後者は対象と起点で、異なった結果になっている。

- (12) a. wrap a scarf (*from) around one's neck
 b. unwrap a scarf *(from) around one's neck (Ito 1991: 61)

この場合、「un-が付く動詞は一律に from 句を選択する」と規定してしまうと、*unlock/*unlearn NP from NP のような例が許されないからには、そのような規定は過剰な一般化になる。よって、un-動詞においては un-の有無が文全体への影響を及ぼす可能を常に意識しておく必要がある。

4.3 un-動詞のまとめ

本節では、形容詞に付く un-は「否定」の意味になる一方で、動詞に付く場合は「元に戻す」という意味になることを確認した。⁶ しかし、基体となる動詞に意味的制約があることや、意味選択が変化する事実があるため、un-の付加は単に「元に戻す」という意味を加えるだけではないことも示した。

5. 映画スクリプトの英語教材としての魅力

本稿ではここまで un-形容詞と un-動詞の性質を概観することで、(1) のような「否定」の接辞リス

⁶ 形容詞と動詞に付加する un-を統一的に扱う分析が由本 (2005) で提案されている。そこでは、接頭辞付加は語彙概念構造 (LCS) のレベルにおける規則とされ、下位範疇化素性の情報が受け継がれるか変更されるかは、基体の LCS の変更によって導き出されると考えられている。よって、un-は形容詞と動詞のいずれに付く場合も「否定」の意味とされ、動詞に付加する場合は (ib) の LCS にあるように、NOT が Place 関数全体にかかることになる。

(i) a. I fasten the rope to the pole.
 [I] CAUSE [BECOME [[the pole] BE [AT [the pole]]]]
 b. I unfasten the rope from the pole.
 [I] CAUSE [BECOME [[the pole] BE [NOT-AT [the pole]]]]

トに **un-** をまとめて入れるだけの危険性、および、**un-** の使用には語構造、下位範疇化素性、意味的特性といった、複数の事情を横断的に考慮する重要性を確認した。これはすなわち、英語学習者は自分のレベルに合わせて、少しずつ **un-** の知識を広める必要があることを意味する。しかしながら、語を形成する「部品」に過ぎない接辞の理解を深める作業は、非常に地味で地道な作業となる。本節では、英語学習者のモチベーション維持はもとより、多種多様な **un-** の実例をもとに英語学習ができるという点で、映画スクリプトが優れた教材になることを、**un-** 動詞を通して指摘する。

5.1 典型的な **un-** 動詞の実例提示

「元に戻す」の意味を確認できる **un-** 動詞は映画内にも多数登場し、典型例の実例提示には事欠かない。「ほどく、はずす」という意味になることが多い名詞転換語の例には次のようなものがある。

- (13) a. Sure enough, it was **unbolted**. <00:52:00> (*Murder on the Orient Express*, 2017)
 b. **Unbuckle** your belt. <00:36:47> (*The Looming Tower*, S(eason)1, Ep(isode)3, 2018)
 c. **Unchain** her, you witch! <01:43:09> (*Oz: The Great and Powerful*, 2013)
 d. Twice I walked in on officers in stages of **undress**. <00:17:10> (*Game of Thrones*, S2, Ep4, 2012)
 e. **Unstrap** him. <00:36:44> (*Mercury Rising*, 1998)

特にこの「元に戻す」の意味は、(14) のような同じ動詞が「**un-**あり型」と「**un-**なし型」で並列する例を示せば学習者も理解しやすくなるだろう。(14a) では **learn** したことを「元に戻す」なので「記憶から消す」、(14b) では **make** したものを「元に戻す」なので「破壊する」になる。

- (14) a. You must **unlearn** what you have **learned**. <01:09:22>
 (*Star Wars: Episode V – The Empire Strikes Back*, 1980)
 b. The Ring was **made** in the fire of Mount Doom. Only there can it be **unmade**. <01:41:39>
 (*The Lord of the Rings: The Fellowship of the Ring*, 2001)

さらに (15) の会話からは、物理的な「縛り」ではない **tie** と **untie** の例を確認することができる。ここの **tie** や **untie** は、規則などの制約 (= 縛り) があることや、それを解くことを指している。

- (15) Carter : Somebody killed my sister. She's 20 feet away. I need to see her body.
 Dr. Mauer : I'm afraid my hands are **tied**.
 Carter : **Tied** by who?
 Dr. Mauer : The White House.
 Carter : Right. I'll be back to **untie** your hands. Soon. <00:02:22> (*Salvation*, S2, Ep4, 2018)

5.2 基体となる動詞の特殊用法からの学び

基体となる動詞の用法が特殊である場合、**un-** 動詞の意味の把握に苦戦することがある。まず **hand** の場合、多くの英語学習者は名詞の「手」、あるいは動詞の「手渡す」を思い浮かべるだろう。しかし、(16) の **unhand** はやや古めかしい表現で「(つかんだ)手を離す」という意味になる。

- (16) No! Get off me! No! No! No! **Unhand** me! No! <01:17:29> (*Hercules*, 2014)

このセリフはギリシャ神話の英雄を描いた物語で登場するため、古めかしい表現も比較的自然に聞こ

える環境が整っている。また、発話者はつかまれた腕を振りほどこうとしており、現代英語の動詞 **hand** や **un-**の「元に戻す」の意味だけでは理解しにくい用法も、こうした視覚的手助けが伴う映像を用いれば効果的に学ぶことができる。さらに2節で触れたように、**un-**は古英語時代から観察された接頭辞であるため、古い時代を舞台とした映画を用いて、英語史に関する学びにつなげることも可能である。

次に **name** の例を考えてみよう。(17) の会話では、誰かの命を奪う約束をしていた **Jaen** が、約束を果たすために **Arya** にその相手を選ばせようとしている。

(17) **Jaen** : Help was not promised, lovely girl. Only death. There must be the others. Give a name, any name.

Arya : And you'll kill them? Anybody?

Jaen : By the Seven New Gods and the Old Gods beyond counting, I swear it.

Arya : All right. **Jaen** H'ghar.

Jaen : A girl gives a man his own name?

Arya : That's right.

Jaen : Gods are not mocked. This is no joking thing.

Arya : I'm not joking. A man can go kill himself.

Jaen : **Un-name** me.

Arya : No.

Jaen : Please?

Arya : I'll **un-name** you.

Jaen : Thank you.

<00:26:15> (*Game of Thrones*, S2, Ep8, 2012)

ここでは、基体の **name** が「指名する」の意味であり、それを撤回する意味で **un-name** が使われていることが分かる。少し厄介なのは、**un-name** にあたる適当な日本語がない点で、映画の字幕でも「取り消す」という汎用性が高い動詞が用いられている。この点から、基体の動詞の特殊な用法に関する知識が得られ、対訳を考えることで日本語力も培えるのが **un-**動詞の特徴の一つと言える。⁷

ここで強調したいのは、特異な動詞である **unhand** や **un-name** さえも、映画を用いれば英語学習者にとって理解しやすくてできる点である。たしかに、これらは英語の中で周辺の語ではあるものの、それでいて、**un-**の機能自体は特段変わっていない。よって、たとえ特異な実例であっても効果的に学習者に提示すれば、**un-**の本質的機能の理解や、ひいては英語の深い学びへとつなげることができるのである。

5.3 日本語に訳しにくい例からの学び

unhand や **un-name** で指摘したように、日本語訳に手を焼く例はむしろ、多角的な学びを与えられる。よって学習者に対しては、日本語訳のクイズ等で活用しやすいものになる。たとえば他にも、名詞の「地球」の意味が邪魔しそうな (18) の **unearth** 「掘り起こす」では、**un-**は名詞に付かない性質から動詞 **earth** の用法を示すのもいいだろうし、(19) においては **invent** を「発明する」と覚えることが多い日本の英語学習者に、それを「元に戻す」ことが何を意味するかを考えさせることも、柔軟な発想力、文脈からの状況把握力、さらには日本語の表現力を鍛えるうえで効果的であろう。⁸

⁷ 主要な英和辞典を見ても動詞 **un-name** の記述はなく、形容詞化された **unnamed** 「名の明かされていない」のみが載っていることが多い。(i) の **unnamed** はこの形容詞化された用法と考えられ、意味が大きく異なる点からも、(17) で確認した動詞の **un-name** を単に受身形にしたものではないことが分かる。

(i) Who's your father? I know you don't know his name, only that he was a general in Pharaoh's army, **unnamed** by your mother.
<00:23:56> (*Exodus: Gods and Kings*, 2014)

⁸ (19) では変異種の（三重螺旋の）遺伝子が話題であるため、**un-invent** は「治療する」という字幕になっている。

(18) In my lifetime, I have **unearthed** many ancient mysteries. <00:52:33> (*The Mummy*, 2017)

(19) Jamie : So, you're saying that some traveling carny grifter from the 1980s inadvertently invented the triple helix.

Mitch : Yeah, that is exactly what I'm saying, and if we are gonna **un-invent** it, we've gotta find descendants from every one of those animals that he zapped. <00:04:43> (*Zoo*, S2, Ep7, 2016)

二重否定の文に取り組むのも、英語力強化のよい練習になる。たとえば (19) では、恐ろしいゾンビを見た Nick と Jenny が、全速力で逃げながら会話をしている。

(20) Nick : You saw it, right?

Jenny : I can't **unsee** it! <00:52:33> (*The Mummy*, 2017)

Jenny のセリフは一見簡単そうに見えて、日本語訳には苦戦するものである。ここでは「(見てしまったが) 見なかったことにする」という意味の **unsee** を **can't** が否定するため、「見なかったことにはできない」となり、すなわち「見たに決まってるでしょ!」となる。

コロケーションに関する知識を増やせる例もある。(21a) では **make arrangements** という表現を基にした **unmake** が登場し、(21b) では **make a mistake** に対してその失敗を「訂正する」という意味で **undo** が採用されている。異なる **un**-動詞による表現方法があるというの也有益な情報になる。

(21) a. Whatever arrangements you made, **unmake** them. <00:26:26> (*Game of Thrones*, S1, Ep7, 2011)

b. You made a mistake. But it's not one that can't be **undone**. <00:34:47> (*Salvation*, S2, Ep9, 2018)

5.4 目的語の情報が重要になる undo からの学び

これまで確認した **untie** や **unfreeze** のような **un**-動詞は、基体の動詞が具体的な行為を表しており、日本語訳の難易度は別にしても、どのような行為を「元に戻す」のかは想像しやすいものが多かった。しかし **undo** は状況が異なる。動詞 **do** には「する」の意味しかないことから、**undo** にはどのような行為を「元に戻す」のかの情報がなく、いわば意味が無色透明な動詞と言える。そのため、具体的な意味は後続する目的語が決定することが多い。この点は次の例からも明らかである。

(22) a. **Undo** the chain, quickly. <00:56:57> (*Zoo*, S1, Ep11, 2015)

b. Miss, **undo** his seatbelt. <01:00:05> (*Non-Stop*, 2014)

c. You can't **undo** the past. All you can do is face what's ahead. <01:41:22> (*Geostorm*, 2017)

d. She starts unbuttoning your shirt, while I **undo** your trousers. <00:35:58> (*The Strain*, S3, Ep8, 2016)

e. If the truth comes out that the president's senior advisor shot Clair Rayburn and then the secretary of defense helped cover it up, it will **undo** this administration. <00:03:03> (*Salvation*, S2, Ep4, 2018)

(22a-e) では、「鎖やシートベルトを外す」、「過去を変える」、「ズボンを脱がす」、「政権を転覆させる」という訳が自然である。すなわち、意味が無色透明である **undo** の意味は、目的語に合わせて変幻自在なのである。よって、異なる目的語を持つ **undo** の実例を用いて、その意味解釈や最も自然な日本語訳を考える練習を課せば、ここでも英語学習者の語学力全般の強化が期待できる。

5.5 新しい表現からの学び

映画の新作が公開されるペースは非常に速く、映画スクリプトには新語や流行語など、その時代特

有の英語表現をすぐに取り入れられるという利点がある。企画から出版までに相当の時間がかかる英語学習書では、そのような即座の新語・流行語への対応は難しい。この点を具体的に見るために、まず副詞 *unhappily* と形容詞 *unfriendly* の語構造を確認してみよう。

副詞の *unhappily* は *[[un[happy]]ly]* という語構造を持ち、まず *un-* と *happy* が結合し、次に *-ly* が付加する語形成の過程を経る。一方で、形容詞の *unfriendly* の語構造は *[un[[friend]ly]]* となり、まず名詞 *fiend* が *-ly* と結合して形容詞 *friendly* を作り、次いで *un-* が付加することで形成される。重要なのは、*un-* は名詞には付加しない性質から、従来 *unfriend* が先に形成されることはないと言われてきた点である。

しかし最近、*unfriend* という新語が誕生し話題となった。これはオックスフォード大学出版局が発表している *Word of the Year* で、2009 年の米国の大賞にも選ばれた語で、「(SNS 等で登録済みの人を) 友人登録から削除する」という意味の動詞である。つまりここでの *friend* は「(SNS 上で) 友人登録する」という動詞であり、まさに SNS 社会を映し出した新語と言える。⁹

すなわち、このような動詞としての *friend* の登場は、*un-* が *friend* に付加する構造の可能性をもたらしたのである。¹⁰ これは、「ことば」が時代の流れに合わせて柔軟に変化し続けるものであることを示す好例である。また、2009 年の *unfriend* の大流行後、この話題に俊敏に反応した映画界では『アンフレンデッド』(*Unfriended*, 2014) と、その続編の『アンフレンデッド ダークウェブ』(*Unfriended: Dark Web*, 2018) というタイトルの、パソコンの画面上のみで展開するホラー映画が公開されている。このような現実社会と言語の緊密な関係性を示すことで、とりわけ流行に敏感な若い英語学習者には、英語の学びを超えた言語文化や言語社会に関して考えるきっかけを与えることができる。

6. おわりに

本稿では接頭辞 *un-* に着目し、まずは英語学習者にとって重要となる点を英語学的視点で提示した。具体的には、*un-* 形容詞の場合も *un-* 動詞の場合も、単に「否定」や「元に戻す」の意味を持つということのみならず、語源的情報、基体の意味的情報、語構造、といった様々な観点からの知識が重要になることを確認した。そのうえで、*un-* の理解を深めるためには、興味深い実例の宝庫である映画スクリプトが効果的な英語教材となることを示した。映画スクリプトには一般の英語教材にはない利点が多く存在することからも、ICT を活用した授業が推奨される今後の日本の英語教育において、映画が重要な役割を果たすことが期待される。

参考文献

- Allen, M. (1978). *Morphological investigations*. Doctoral dissertation, University of Connecticut.
 Aronoff, M. (1976). *Word formation in generative grammar*. Cambridge, Mass.: MIT press.
 Hust, J. R. (1977). The syntax of the unpassive construction in English, *Linguistics Analysis* 3, 1: 31-63.
 Ito, T. (1991). C-selection and s-selection in inheritance phenomena. *English Linguistics* 8. 52-67.
 Katamba, F. & Stonham, J. (2006). *Morphology: Second edition*. London: Macmillan.
 Lieber, R. (2016). *Introducing morphology: Second edition*. Cambridge: Cambridge University Press.
 Marchand, H. (1969). *The categories and types of present-day English word-formation: A synchronic-diachronic approach*. München: C. H. Bech'sche Verlagsbuchhandlung.
 Pinker, S. (1999). *Words and rules: The ingredients of language*. HarperCollins.
 Selkirk, E. (1982). *The syntax of words*. Cambridge Mass.: MIT Press.
 Siegel, D. (1973). Nonsources of unpassive. in Kimball, J. P. (Ed.) *Syntax and Semantics* 4. New York:

⁹ 既に存在する動詞に *un-* を付けて、意図的に新しい動詞を作ることもある。

(i) I could nick this artery in your leg. Once it's nicked, there's no one around here who knows how to **un-nick** it. <00:04:47>
 (*Games of Thrones*, S2, Ep2, 2012)

¹⁰ OED によると動詞 *friend* の初出の例は 1225 年のようなが、意味は「友達を得る」や「味方する」とされる。(高橋 2020)

Academic Press.

Siegel, D. (1974). *Topics in English morphology*. Doctoral dissertation, MIT.

久野暲・高見健一. (2007). 『謎解きの英文法 一否定一』. 東京: くろしお出版.

高橋英光. (2020). 『英語史を学び 英語を学ぶ』 東京: 開拓社.

竝木崇康. (1985). 『語形成』. 東京: 大修館書店.

竝木崇康. (2009). 『単語の構造の秘密』. 東京: 開拓社.

西川盛雄. (2013). 『英語接辞の魅力』. 東京: 開拓社.

由本陽子. (2005). 『複合動詞・派生動詞の意味と統語 —モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』. 東京: ひつじ書房.

米倉綽. (2015). 『歴史的にみた英語の語形成』. 東京: 開拓社.

映画

Becker, H. (Director). (1998). *Mercury rising* [Motion picture]. United States: Universal Pictures.

Branagh, K. (Director). (2017). *Murder on the orient express* [Motion picture]. Malta, United States: Twentieth Century Fox.

Collet-Serra, J. (Director). (2014). *Non-stop* [Motion picture]. United Kingdom, France, United States, Canada: StudioCanal.

Dahl, J. (Director). (2018). Mistakes were made [Television series episode]. *The looming tower*. United States: Legendary Television.

Devlin, D. (Director/Writers). (2017). *Geostorm* [Motion picture]. United States: Warner Bros.

Fuentes, Z. (Director). (2015). Eats, shoots and leaves [Television series episode]. *Zoo*. United States: James Patterson Entertainment

Gabriadze, L. (Director). (2015). *Unfriended* [Motion picture]. United States, Russia: Bazelevs Production.

Jackson, P. (Director/Writers). (2001). *The lord of the rings: The fellowship of the ring* [Motion picture]. New Zealand, United States: New Line Cinema.

Kershner, I. (Director). (1980). *Star wars: Episode V - The empire strikes back* [Motion picture]. United States: Lucasfilm.

Kurtzman, A. (Director/Writers). (2017). *The mummy* [Motion picture]. United states, China, Japan: Universal Pictures.

Lerner, D. (Director). (2018). Indivisible [Television series episode]. *Salvation*. United States: Secret Hideout.

Lopez-Corrado, N. (Director). (2018) The manchurian candidate [Television series episode] *Salvation*. United States: Secret Hideout

Minahan, D. (Director). (2011). You win or you die [Television series episode]. *Game of thrones*. United States: Home Box Office.

Nolan, C. (Director/Writers). (2008). *The dark knight* [Motion picture]. United States, United Kingdom: Warner Bros.

Petrarca, D. (Director). (2012). Garden of bones [Television series episode]. *Game of thrones*. United States: Home Box Office.

Raimi, S. (Director). (2013). *Oz the great and powerful* [Motion picture]. United States: Walt Disney Pictures.

Ratner, B. (Director). (2014). *Hercules* [Motion picture]. United States, Hungary: Paramount Pictures.

Rose, L. (Director). (2016). Jamie's got a gun [Television series episode]. *Zoo*. United States.

Scott, R. (Director). (2014). *Exodus: Gods and kings* [Motion picture]. United Kingdom, Spain, United States: Chernin Entertainment.

Scott, T. J. (Director). (2016). White light [Television series episode]. *The strain*. United States, Canada.

Susco, S. (Director/Writer). (2018). *Unfriended: Dark web* [Motion picture]. United States, Russia: Bazelevs Production.

Taylor, A. (Director). (2012). The night lands [Television series episode]. *Game of thrones*. United States: Home Box Office.

Taylor, A. (Director). (2012). The prince of Winterfell [Television series episode]. *Game of thrones*. United States: Home Box Office.